

河北新報

11月29日(火)

河北新報社

仙台市青葉区五橋1-2-28
(郵便番号 980-8660)

「東」は、未来



海岸林再生へ第一歩

名取の農家ら 苗木栽培技術学ぶ

で会
衡習
大講

公益財団法人オイスカ(東京)が名取市内で取り組む海岸林再生プロジェクトに加わる地元農家らが28日、苗木生産者の登録資格を得るための県の講習会に参加した。登録資格を得たことで、プロジェクト参加者数人が年内にも県農林種苗農協

(仙台市)に生産者登録を行い、来春には海岸林向けの苗木の試験栽培に着手する。大衡村の県林業技術センターの講習会には、名取市東部震災復興の会(鈴木英二会長)の農家ら10人が参加。センターの職員らから、マツやス

ギといった針葉樹の苗木生産技術や関連する法律について学んだ。屋外での講習では、海岸林に使われるマツクイムシに強い抵抗性クロマ

ツの採種畑も視察。受講した農家の一人、桜井重夫さん(61)は「丈夫な苗木の生産には、病気になるような土壌の消毒が大切だと分かった」と話した。プロジェクトは寄付金を原資に、海岸林の再生に必要な苗木の生産とともに、育成に関わる農家

らの生計支援も目的にしている。名取市内に用地を確保し、来年3月ごろには種まきを始め、試験栽培に乗り出す計画。10年間で50万本の苗木生産を目指している。



職員の説明を受けながら苗木の生産について学ぶ受講者。大衡村の県林業技術総合センター